

《どうでもいい話、その 600》

どうでもよくない皆様へ

こんにちは！

このどうでもいい話は今回で600回になります。25年ほど前より始めましたが、元々私は理系で作文などは苦手でしたが、それが何かのきっかけで書き始め、ズルズルと今日に至ってます。なにしろ子供の頃から小説などあまり読むことがなく、愛読書は少年マガジンとかマンガばかりでした。それが大人になってから、松本清張の「点と線」を読み、ハマってそれから「ゼロの焦点」「砂の器」などの推理小説に惹かれました。私は一度惹かれると、とことんお付き合いするほうで、飲み会などの例でいうと、宵の口の居酒屋から付き合い始め、スナック、ラウンジ、立ち食いソバ、駅のオシッコまで付き合いします。また夫婦の作家などは、奥さんの書いたものにも手を出します。奥さんにまで手を出すのは、はたしていかなものか、と思うこともあります。惹かれるとつい手を出してしまいます。これからもどうでもいい話は、ボケ防止のため書きますので、お付き合いよろしくをお願いします。

岩波より